

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年6月27日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	経営学部経営学科
留学(渡航)した時の学年	4年生
帰国年月日	2024年5月31日
明治大学卒業予定年月	2025年3月
留学先大学について	
留学先国	英国
留学先大学	マンチェスター大学(日本語名) University of Manchester(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2023年9月～2024年5月
留学先大学で在籍した学年	年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称:  <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1学期: 4月上旬～7月下旬 2学期: 9月中旬～2月上旬	1学期: 9月下旬～1月下旬 2学期: 1月下旬～6月上旬 3学期: ~ 4学期: ~
学生数	40,000人
創立年	1824年

## 留学費用

留学費用項目	現地通貨 ( )	日本円	備考
授業料		円	
宿舍費	£7,392	1,330,560 円	食事付き
食費	£300	60,000 円	昼食、外食
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	£32	6,400 円	
現地交通費		円	( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	£300	60,000 円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費		102,635 円	形態: 明大サポート海外旅行保険
渡航旅費	£985	177,300 円	
ビザ申請費	£960	172,800 円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計	£9,969	1,909,695 円	



## 渡航関連

渡航経路
<b>往路 出発地:</b> 羽田 <b>目的地:</b> マンチェスター <b>経由地:</b> フランクフルト <b>復路 出発地:</b> マンチェスター <b>目的地:</b> 羽田 <b>経由地:</b> フランクフルト
渡航費用
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: ANA, Lufthansa  料金: 177,300 円  ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:            料金:  復路 航空会社:            料金:                            ∴ 合計:
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:        ) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: 各航空会社の公式サイト) <input type="checkbox"/> その他(        )
滞在形態関連
1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舍等)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: Hulme Hall) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数        )
3) 共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン( <input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4) 住居を探した方法:
大学の International Programme Office から送られてくるメールの指示に従い、寮を探した。第1～5希望まで申請でき、その中で大学からオファーが来た寮へ寮費全額または deposit 費のみを入金することで部屋が確約されます。
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
朝・夕の食事付きの寮だったので友人を作りやすい環境でした。寮内には Bar やビリヤード・卓球室、ジム、サッカーコート、音楽室、自習室など充実した施設があり、食事以外にも寮生と交流しやすい環境が整っています。また、大学キャンパスエリアまで徒歩 10 分圏内、バスで 20 分圏内には街の中心部や空港があり、様々な場所へのアクセスがとても良く、寮から大学までにスーパー、ドラッグストア、飲食店、郵便局、N H S の病院があり、徒歩圏内に生活に必要なものが全て揃っています。寮自体は閑静な住宅地に位置するのでとても落ち着いており、非常にバランスの取れた寮でした。

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: )

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

私自身は危険な目に遭うことはありませんでしたが、大学の寮全体で強盗が多発した時期に、私の寮内でも被害がありました。部屋の扉や窓の施錠には特に気をつけて過ごしていました。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

携帯は現地の GiffGaff というキャリアの SIM カードを購入し、利用していました。WiFi に関しては、寮や大学施設のものを利用していたので個人で契約はしていません。寮のインターネット接続は時々使えなくなったりすることがありました。

5) 現地での資金調達はどうに行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

Revolute でインターネット口座を開けました。私は現地の友人からの招待を使って口座を開けたので通常とは手順が少し違うかもしれませんが、招待 URL から本人確認書類を提出し、作成しました。口座開設時にデビットカードの形態で、Physical card 発行を希望すると配送料が£4.99 かかります。バーチャルカードのみだと無料で作れました。申請が完了次第、すぐに口座・デビットカードともに利用可能で、私は 20 分くらいで作成できました。Revolute の口座に親から送金してもらった分とクレジットカードで基本的には支払いを行っていました。他にも Monzo という銀行もオンラインで手続きが完了するので学生に人気です。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

服に貼り付けるカイロは冬の時期に重宝したので、持っていくことをお勧めします。日本食品に関しては大抵の物は割高ですが近所の中華系スーパーで調達できます。他には、フォーマルな服を一着ほど持っていくとよいと思います。寮内でフォーマルディナーが2ヶ月に一回ほど開催され、ドレスコードがフォーマルな服装なので(普段着でも参加できます)、一着あるとかなり使えると思います。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)



## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
100 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
<b>2) 履修登録の時期・方法及び履修制限</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input checked="" type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。 記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Fundamental of management	経営学基礎
<b>科目設置学部・研究科</b>	
<b>履修期間</b>	Semester 1
<b>単位数</b>	10
<b>本学での単位認定状況</b>	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
<b>授業形態</b>	講義(チュートリアル、講義形式等)
<b>授業時間数</b>	1 週間に 120 分が 1 回
<b>担当教授</b>	Masakatsu Ono
<b>授業内容</b>	経営学の基礎について学ぶ1年生向けの授業。ヒト・モノ・カネ・情報のマネジメントについて、基本的なものを中心にざっくりと学ぶ。
<b>試験・課題等</b>	中間試験(選択問題)、期末試験(選択問題と短文・長文記述問題)
<b>感想を自由記入</b>	授業内でゲーム感覚のクイズ大会を行ったり、経営学初心者が興味を持って学べるような工夫が印象的だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Introduction to Business Anthropology: Consumers, Companies, and Culture	ビジネス人類学
科目設置学部・研究科	
履修期間	Semester 1
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	チュートリアル、講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Maia Green
授業内容	組織や消費者の文化を社会科学の分野から分析する。ビジネスシーンで人類学がどのように組織や消費者の行動に結びついているかを学び、これからのビジネスのあるべき姿を人類学の側面から考える。
試験・課題等	中間エッセイ(500words)、期末エッセイ(1500words)
感想を自由記入	経営学部での学びを一番活かした授業であった。ビジネスを人類学という人間の動物的側面から再構築することで、論理的に様々な経営戦略の正当性を検証でき、改めてマネジメントの奥深さを感じた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Why China matters?	中国事情
科目設置学部・研究科	
履修期間	Semester 1
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Peter Grie
授業内容	21世紀における中国の国内外の状況について学ぶ。経済や政治、国際社会における諸外国との関係や国内の多様な民族問題やテクノロジー・エネルギー問題まで様々なピククに関して、これまでの歴史と照らし合わせ議論する。
試験・課題等	中間エッセイ(1000words)、期末エッセイ(1500words)
感想を自由記入	講義だけでなく、受講生同士で意見交換をしたり、マンチェスターと中国が結ぶパートナーシップ協定団体が主催する tea ceremony イベントに参加したことが印象的だった。講義から一方的に学ぶのではなく、イベントで実際に中国の方と交流し、生の声を聞くことで学びを多角的に深められた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Are We Alone? The Search for Extraterrestrial Life	地球外生命体探索
科目設置学部・研究科	
履修期間	Semester 1
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Michael Garrett, Matthew Cobb
授業内容	地球外生命体の存在や高度な知的文明について最新の研究を踏まえて、その存在の有無や存在した場合に我々がどのように対応すべきかについて学ぶ。
試験・課題等	中間エッセイ(1500words),期末エッセイ(1500words)
感想を自由記入	担当教授による最新の SETI(地球外知的生命体探索)動向に関するプレゼンを聞いた後、受講生との Q&A セッションで様々な討論を行う公開討論会がとても興味深かった。何百人もの受講生がいるため、教授と直接討論する非常に貴重な機会であり、他の学生のユニークな意見に刺激をたくさん受けた。希望者のみの参加であったが、参加者は200人程度いた。討論会ではあるが会場にはケータリングも用意されていて、和やかな雰囲気だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Leadership in Action	リーダーシップ論
科目設置学部・研究科	
履修期間	Semeste 2
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Amelie Mons
授業内容	複数あるリーダーシップの手法について学び、SDGsをはじめとした気候変動や貧困問題など21世紀が抱える複雑な問題に対してどのようなリーダーシップ像が求められているか学ぶ。
試験・課題等	中間エッセイ(1200words),期末エッセイ(1200words)
感想を自由記入	リーダーシップの手法がどういったもので、なぜその手法が適切であったのかをケーススタディをもとに学ぶため、理解しやすかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Understanding Mental Health	メンタルヘルス論
科目設置学部・研究科	
履修期間	Semeste 2
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Sara Tai
授業内容	メンタルヘルスの重要性から健康的な精神衛生を保つために個人と社会が果たすべき役割について学ぶ。
試験・課題等	中間エッセイ(1500words)、期末エッセイ(500words)、期末試験(ケーススタディに関する選択・記述問題)
感想を自由記入	この授業では主にどのような取り組みや環境づくりがメンタルヘルスに好影響を与えるのかについて体系的に学べた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Trust and Security in a Digital World:From Fake News to Cyber Criminals	デジタル世界における信頼と安全
科目設置学部・研究科	
履修期間	Semeste 2
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Meropi Tzanetakis
授業内容	デジタル社会に潜む脅威について、社会や心理、法、テクノロジーの観点から学ぶ。
試験・課題等	中間エッセイ(1000words)、期末エッセイ(500words)、期末試験(選択問題)
感想を自由記入	情報の扱い方がいかに大切かを痛感させる授業だった。他の生徒との議論において自分のITリテラシーの低さを認識するとともに、授業で扱うサイバー犯罪のケーススタディで毎回、大多数の生徒が気付きもしないような脅威について学べ、履修した授業の中で一番実用的な学びを得た。



履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Equality, Diversity and Inclusion: Your role in shaping a fairer world	平等、多様性と包括
科目設置学部・研究科	
履修期間	Semeste 2
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Rachel Cowen
授業内容	雇用や労働における平等、多様性、包括的な取り組みについて学ぶ。
試験・課題等	中間エッセイ(750words)、期末エッセイ(1500words)、期末試験(選択問題)
感想を自由記入	文化の多様性や異なる人種との心地よい共存のモデルについて、移民が多いイギリスならではの視点で学べ、とても興味深かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Digital Society:Your place in a Networked World	デジタル社会
科目設置学部・研究科	
履修期間	Semeste 2
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が3回
担当教授	Dave Hirst
授業内容	個人や社会など様々なものをつなぐネットワーク世界において、今後どのような変革が起きるのか、我々はどう付き合っていくべきかについて学ぶ。
試験・課題等	中間エッセイ(500words+1000words)、期末エッセイ(1500words)
感想を自由記入	独自のブログサイトを使ったユニークな形式の授業だった。サイトには今までの受講生の意見が掲載されており、過去のブログを読むことで問題に対する理解や視野を広げられた。

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職   進学   未定   その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

最近ではオンラインでの就職活動ができる環境が整いつつあるので、フルオンラインで就職活動を行うという選択肢もあります。ただし、企業によっては対面での面接を条件とする場合もあるため、エントリー前に確認した方が良いでしょう。説明会や面接などは基本的に日本時間で行われるので、時差が気になる方はなるべく時差の少ない国を選ぶことをお勧めします。もう一つの方法として、Boston Career Forum のような海外大留学生をターゲットとした対面での就職活動イベントもいくつかあるので、そちらも検討する価値はあると思います。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。



## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	10月 IELTS 受験、学内選考(書類提出、面接)
留学開始年	1月～3月	2月留学オリエンテーション、3月留学先大学の選考
	4月～7月	5月航空券購入、7月 VISA 申請、留学先大学の履修登録
	8月～9月	8月寮の契約、9/14 留学開始
	10月～12月	12月中間試験
留学/帰国年	1月～3月	1月期末試験、3月中間試験
	4月～7月	5月期末試験、帰国
	8月～9月	
	10月～12月	



## 留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

マンチェスター大学の学生と交流する中で、学生が学びに対する明確な目的意識を持っているという点がとても印象的でした。中長期目標をもとに自分が何をすべきか逆算して行動する学生が多く、意欲的に学ぶ姿勢に私も感化されました。自分が心から学びたいと思える分野を勉強する時が一番、物事を吸収できるという学びがありました。皆さんも留学先では、自分が本当に興味がある授業を履修してみてください。留学後にどんな自分になりたいか、どんなことができるようになりたいかを考え、逆算した時に自分が学ぶべきものがみえてくると思います。当初、私は留学先での勉強よりも私生活をどれだけ充実させるかに焦点を当てて計画していました。もちろん勉強以外の活動も留学の醍醐味なので、そのような方向性で楽しむことも良いと思います。ただ、現地で自分の専門外の授業を色々と履修する中で、単純に知識も増えましたし、物事の見方も豊かになりました。そして何よりも、いろいろなことを学ぶ中で、自分の興味の範囲など自己理解が深まったように感じます。授業を選ぶ際は自分の興味や将来像を軸に選定することをお勧めします。

勉強以外の活動においては、とにかく挑戦する精神で何事にも取り組んでいました。私は現地の日本語授業の Teaching Assistant を行っていました。TA を募集する旨のメールが大学から届いたことをきっかけに始めましたが、非常に貴重な経験になりました。友達からの誘いや大学からのオファーなど、チャレンジする機会があれば逃さず参加することで様々な体験ができました。小さなことでも新しいことに挑戦してみてください。

